

津市立南が丘小学校だより

かがやく未来

2025. 10. 22 N015

一見、無駄だと思うことにこそ価値がある



私はかつて声楽家 谷篤さん、ピアニスト 揚原祥子(さちこ)さんを招いて小学校の体育館で津市芸術体験事業の一環としてコンサートを行っていただいたことがあります。お二方とも世界的に有名な大会やコンクールで優秀な成績を残された著名な方です。現在、全国をまわり音楽活動をされている合間に学校訪問をされてみえますが訪問されているのは津市のみと聞き驚きました。コンサート後、谷さん、揚原さんと少しの時間でしたがお話をさせていただくことができました。谷さんから子どもたちが一番喜んだ「うんこ」と「かえる」という曲を入れた理由は“一見、無駄だと思うことにも価値がある”ということを伝えたかったからだと話してみえました。

揚原さんは音楽家であると同時に教育者でもあるため、幼少期の教育についても話をされました。「この学校のお子さんはみなさん、素敵ですね。きっとこの自然に囲まれた素敵な環境が大きく影響されていますね」とおっしゃられ、ある研究者がノーベル賞を受賞した人を調べたところ、幼少期に自然の中でいっぱい経験をした人がほとんどだったという結果が出たということを知らせていただきました。

先日、1年生は偕楽公園に遠足に行きましたが、着くや否や、遊具で遊んだり、どんぐりを集めたり、死んでいた幼虫のお墓を作ってあげたり、埋まっていた石を全部掘り起こして塔のようなものを作っていたり、水道の近くで水遊びをしたりするなど様々でした。「そんな汚いこと…」などと大人は言いたくなるころですが、子どもたち1人1人の目を見ているとキラキラするとともにとても真剣でした。帰る時、子どもたちから「あ～楽しかった～」という声がたくさん聞こえました。お弁当を食べる前と後の自由時間の間、子どもたちは森の中を走り回り、体をいっぱい動かして楽しい時間を過ごしていて、私はとても嬉しくなるとともに、こういう自然の中で過ごすことは子どもたちにとってとても大事なあとと改めて感じました。

「無駄だ…」と大人が思うことの中にはたくさんの子どもたちの学びや可能性という宝石がいっぱい詰まっています。まずは、「この子は今何を考えているのだろうか?」「どういうところを楽しんでいるのだろうか?」とちょっと考えてみると、その先の言葉がけも変わってくるかもしれません。

